

試験の評価内容や配点を明確に提示し、それぞれの項目で測る力の内容も公開

独自の枠組みをつくり、自学に合った人材を集める

家政学部・児童学部・教育学部を有する鎌倉女子大学は、各専門分野の中で免許や資格を取得し、それを活かして就職する卒業生を多数輩出している。教員採用試験や管理栄養士国家試験で高い合格率を誇り、専門性の高い教育を実証している一方、コミュニケーション力や文章作成力など総合力の強化にも力を入れている学びの特色がある。

入試では1997年からAOを取り入れてきたが、高大接続改革を見据え、昨年から「AO入試（高大接続重視型）」をスタートさせた。左ページの図版からもわかるように、紛れもなく「学力の三要素」を明確に測るための入試で、評価内容や配点まで公開していることが特徴だ。こうした入試を導入した背景について、入試・広報センター長の河村和宏氏に伺った。

「高大接続改革を受けて、大手の大学でも『主体性』や『多様性』をどう評価していくかの検討が始まっています。こ

の改革の先は、大学が淘汰されていく時代になると直感しています。首都圏郊外の女子大として本学は、独自の枠組みで、専門知識や技能の習得に意欲をもつ学生を集め、現代の社会に求められる人材として育成していくことがさらに必要になると考えました。

新しい入試を完成させるには4〜5年がかかると覚悟していますが、手探りでも早い時期から『学力の三要素』を取り入れた入試を実施していかないと、2020年までに本学に合った方法を見出せません」

これまでも同学は思考力や表現力を測るプレゼン型のAO入試を行ってきた。それをモデルチェンジすることで、主体性・多様性・協働性も判定できる入試をつくる下地はあった。そして、学力要素の評価方法を数値化して、入試要項とともに公開することとした。それが図4だ。審査の5つの項目で、エントリーシートの内容も加味しながら、学力要素の何をどう測り、配点しているかを公開している。

「ここまで公開したのは、フィギュアスケートなどの採点のように、『ここぞで

れぐらいやれば何点取れる』ことを、受験生自身が把握できることを目的としています。つまり、本学を専願で目指そうという生徒は対策ができるということ。裏を返せば『しっかりと受験勉強しないと受からない』という受験生へのメッセージです。AO入試はともすれば

大学側の青田買いや一芸入試のように捉えられ、簡単に合格できると思われるがちですが、この入試では『本学で何をどう学ぶか』という明確な意志を示す必要があります。また、評価方法を見れば、本学が求める人物を明らかにできると考えました」（河村氏）

実践した反省を踏まえて、方法や評価を改善していく

「AO入試（高大接続重視型）」の流

れは図2の通りだ。エントリー書類の審査を通過した受験生は、約2週間後に行われる2日間にわたる審査を受けることになる。審査の初日はプレゼンテーションと集団討論。プレゼンテーションは書類審査の結果とともに通知される課題に従って、パワーポイントでプレゼンシートを作成して当日に臨む。

プレゼンシートを作成して当日に臨む。

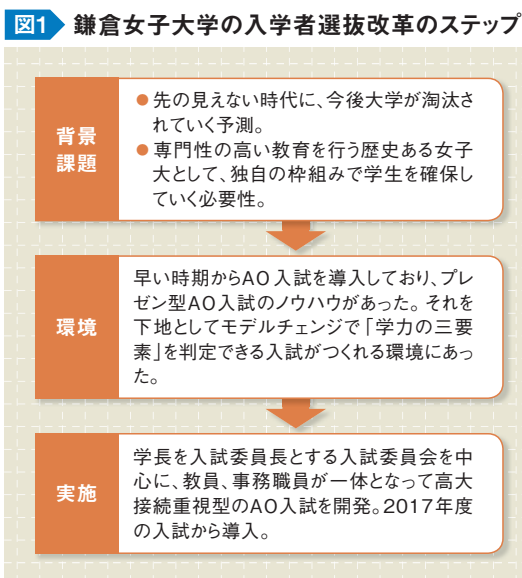
集団討論のテーマは当日控え室で渡し、考えをまとめる時間を与える。

「プレゼンテーションも集団討論も、志望学科ごとに関連するテーマを出しました（図3）。しかし、昨年実施してみても集団討論は受験生ごとに大きな差がつかなかったため、今年から志望学科をシャッフルして、建学の精神をベースにしたテーマで行うよう改善する予定です。学科を横断して意見を交わすことで、多様ななかで協働的に動ける

ことと、多様ななかで協働的に動ける



入試・広報センター長 河村和宏氏



取材・文／長島佳子



図2 AO入試(高大接続重視型)の概要

- 対象学部／
家政学部家政保健学科、児童学部児童学科・子ども心理学科、教育学部教育学科
- 求める人材：
 - 1) 高等学校もしくは中等教育学校で積極的に学習に取り組んでいる人。
 - 2) 課外活動(部活動、生徒会活動、ボランティア活動等の社会的活動等)で実績をあげている人。または、各種資格や各種検定において優秀な成績を有する人。
 - 3) 本学が定めるアドミッションポリシーに適合し、入学後、活躍が期待できる人。
- 入試の流れ

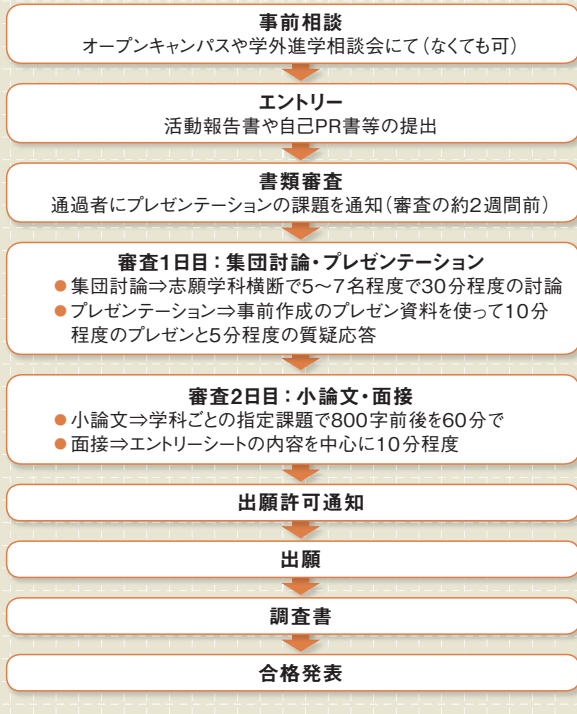


図3 AO入試(高大接続重視型)の出題テーマ例(2017年度)

学科	プレゼンテーション課題	集団討論テーマ
児童学科	近年、コミュニケーション能力の育成は、教育・保育における重要な課題とされています。コミュニケーションの方法には、学校や地域で友達と一緒に遊ぶなどの直接的コミュニケーションとSNSをはじめとする間接的コミュニケーションがあります。児童期における直接的コミュニケーションと間接的コミュニケーションの長所と短所を述べたうえで、子どもの社会性の発達という視点から考えることを発表してください。	現代の子どもは、公園など屋外で遊ぶことが少なくなり、自宅などの屋内で遊ぶことが多くなったといわれる。このような遊びの変化は、子どもの発達にどのような影響を与えるかについて討論する。
教育学科	豊かな人間性を育むことは、教育の最も重要な要素の一つです。あなたはこの教育的課題をどのように考えていますか。高校生活における経験を踏まえながら、次の三つの視点から考察してください。 ア、心の広さ イ、心の深さ ウ、社会性	「ある小学校の児童が取り組む目標を標語にしてみよう。」勤務する小学校の児童の課題から、その課題を改善するための目標につながる標語を考える。

図4 AO入試(高大接続重視型)の評価方法

	配点(合計)	APの適合性	基礎学力(知識・技術)	思考力	判断力	表現力	主体性	多様性	協働性
調査書	10点		10点						
プレゼンテーション	25点	10点		5点	5点	5点			
面接	25点	10点		5点	5点	5点			
集団討論	25点				5点		10点	5点	5点
小論文	15点		5点	5点		5点			



集団討論をどのように行うかを、今年のオープンキャンパスで公開。

力要素ごとに何ができると何点得点できるかのルーブリックも作成している。「審査ごとの採点基準は公開していませんが、本学はキャリアに結びつきやすい専門性の高い学科ばかりなので、それぞれのプロフィールとしての学

力要素を求めています。例えば、児童学科は教員や保育士を目指す学科なので、子どもや保護者に対峙するための、思考力や判断力、表現力があるかを見るなどです(河村氏)

書類審査にもルーブリックを導入して数値化を目指す

同学では、入学定員の1割未満にすぎない過去のプレゼン型AO入試で入学した学生が、卒業時の最優秀賞を受賞することもあった。「AO入試(高大接続重視型)」で入学した学生たちにも、ゼミや学園祭などの学内活動だけでなく、同学で盛んな地域連携や産学連携などの学外活動などでリーダーシ

ップを自然に発揮し、大学を活性化していくことを期待している。「AO入試では調査書の配点が低い分、入学後に基礎学力に不安が出る学生もいます。それでも教員がクラスアドバイザーとして学習や大学生活全般の相談にのるなど、教員が全員参加で学生をバックアップする体制が整っていることで、大学に入ってから学力の伸び代が大きいのも本学の特徴です(河村氏)

今後は、現在はまだ数値化できていないエントリーシートの評価も、ルーブリックを作成して数値化することを目指しているという。エントリーシートには高校時代の正課外活動が記されているが、例えば部活動であれば、出場し

た大会の規模と成績を組み合わせて採点するなどだ。そのフォーマットづくりを現在河村氏が検討中だ。「書類で提出される正課外活動の内容を、主体性・多様性・協働性などで数値的に評価できれば、将来的に一般入試にも応用できると考えています。現在の書類審査は、出願資格に合っているかを事務職がチェックしているにすぎませんが、評価基準をマニュアル化すれば、事務職がエントリーシートを採点できるようになります。入試に関わる事務職を専門職として養成していきたいという意図もあります(河村氏)

学力の三要素をどう測るか、鎌倉女子大学の挑戦は続く。

かをより判断できるようになると思えます(河村氏)

2日目は学科ごとの課題による小論文と、面接を行う。ここでは、自分が学びたいことを自分の言葉で言語化できるかを測られる。

配点は図4のように決めており、学



書類審査にもルーブリックを導入して数値化を目指す

力要素を求めています。例えば、児童学科は教員や保育士を目指す学科なので、子どもや保護者に対峙するための、思考力や判断力、表現力があるかを見るなどです(河村氏)

た大会の規模と成績を組み合わせて採点するなどだ。そのフォーマットづくりを現在河村氏が検討中だ。「書類で提出される正課外活動の内容を、主体性・多様性・協働性などで数値的に評価できれば、将来的に一般入試にも応用できると考えています。現在の書類審査は、出願資格に合っているかを事務職がチェックしているにすぎませんが、評価基準をマニュアル化すれば、事務職がエントリーシートを採点できるようになります。入試に関わる事務職を専門職として養成していきたいという意図もあります(河村氏)

た大会の規模と成績を組み合わせて採点するなどだ。そのフォーマットづくりを現在河村氏が検討中だ。「書類で提出される正課外活動の内容を、主体性・多様性・協働性などで数値的に評価できれば、将来的に一般入試にも応用できると考えています。現在の書類審査は、出願資格に合っているかを事務職がチェックしているにすぎませんが、評価基準をマニュアル化すれば、事務職がエントリーシートを採点できるようになります。入試に関わる事務職を専門職として養成していきたいという意図もあります(河村氏)